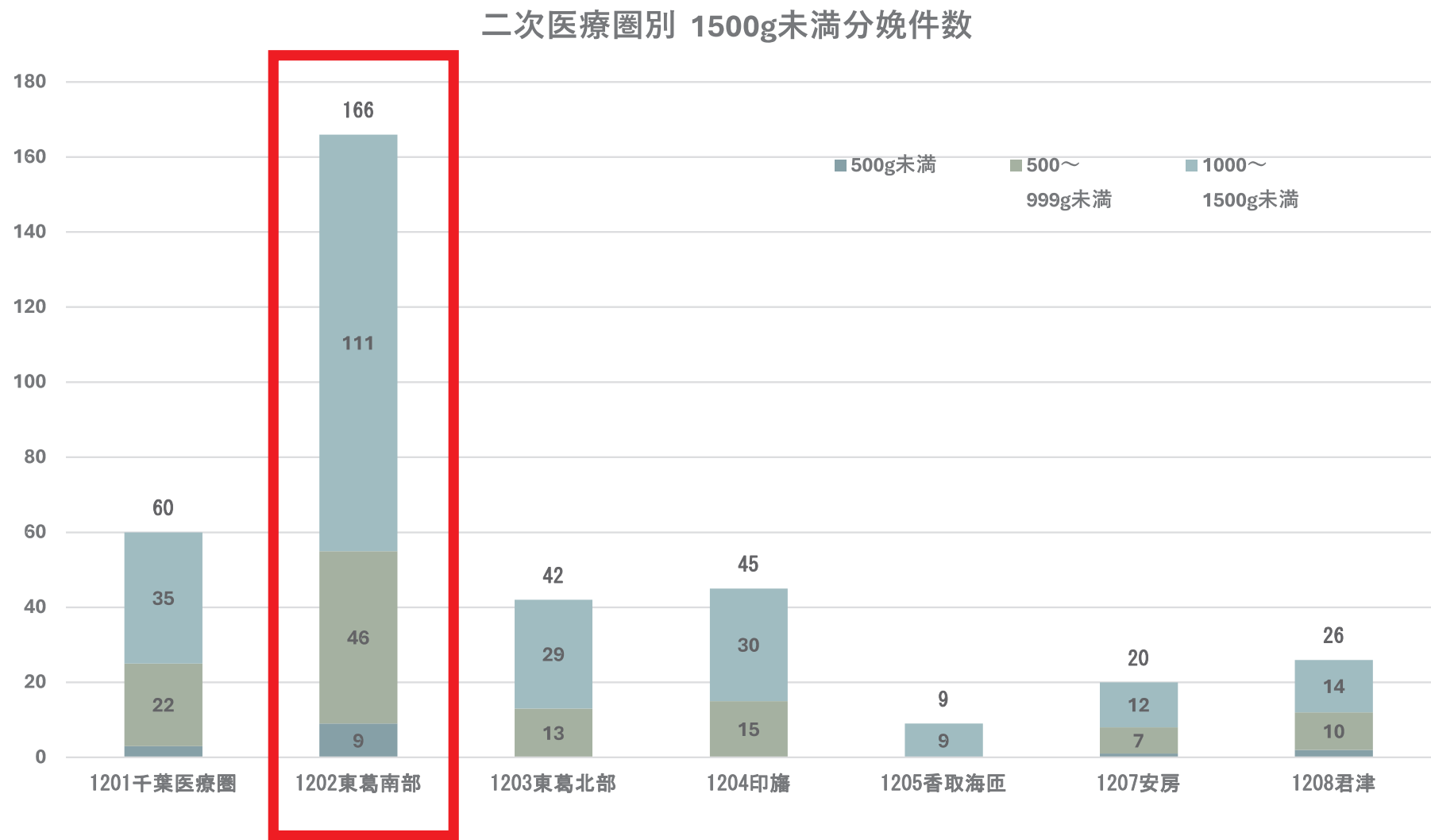


医療圏別 1500g未満分娩件数

県内で最も分娩件数が多い



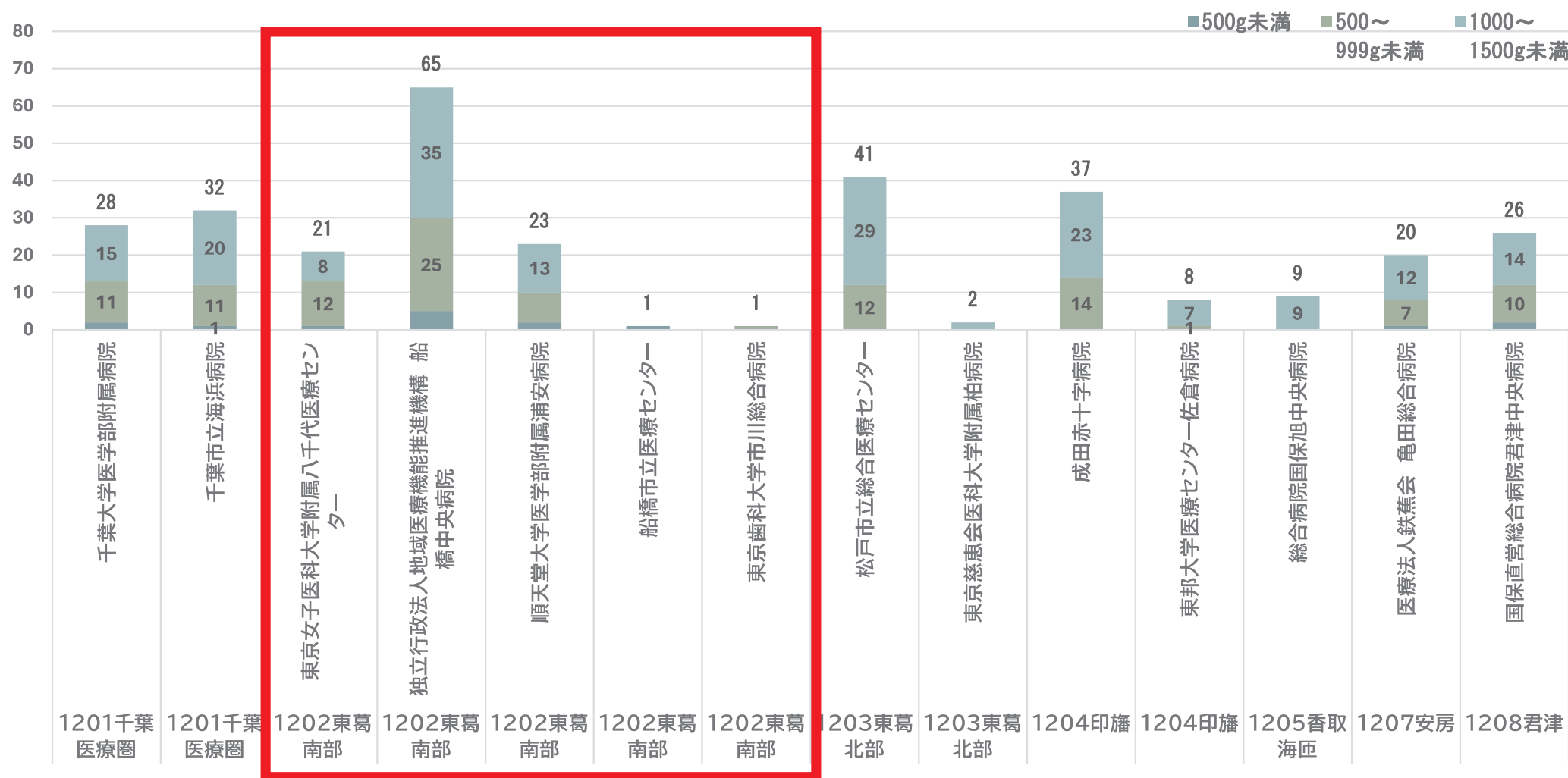
※出典：千葉県周産期医療体制に係る調査2023(R5)年度

※病院による報告データのため一部データが不足している可能性がある

医療機関別 分娩時体重別件数

船橋中央・順天浦安・女子医八千代にて受け入れている。

1500g未満分娩取り扱い全病院

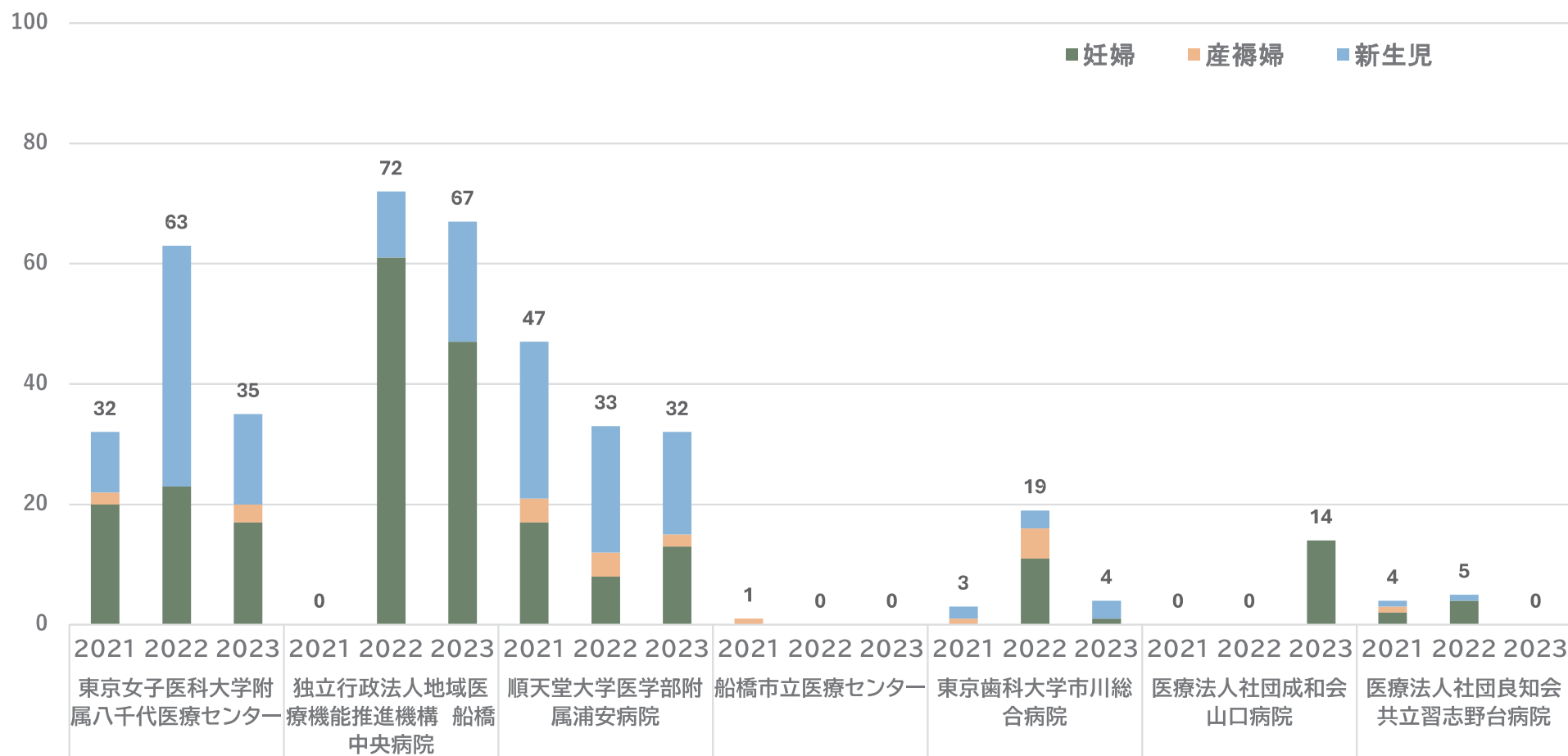


※出典：千葉県周産期医療体制に係る調査2023(R5)年度

※病院による報告データのため一部データが不足している可能性がある

船橋中央・順天浦安・女子医八千代を中心に受け入れている

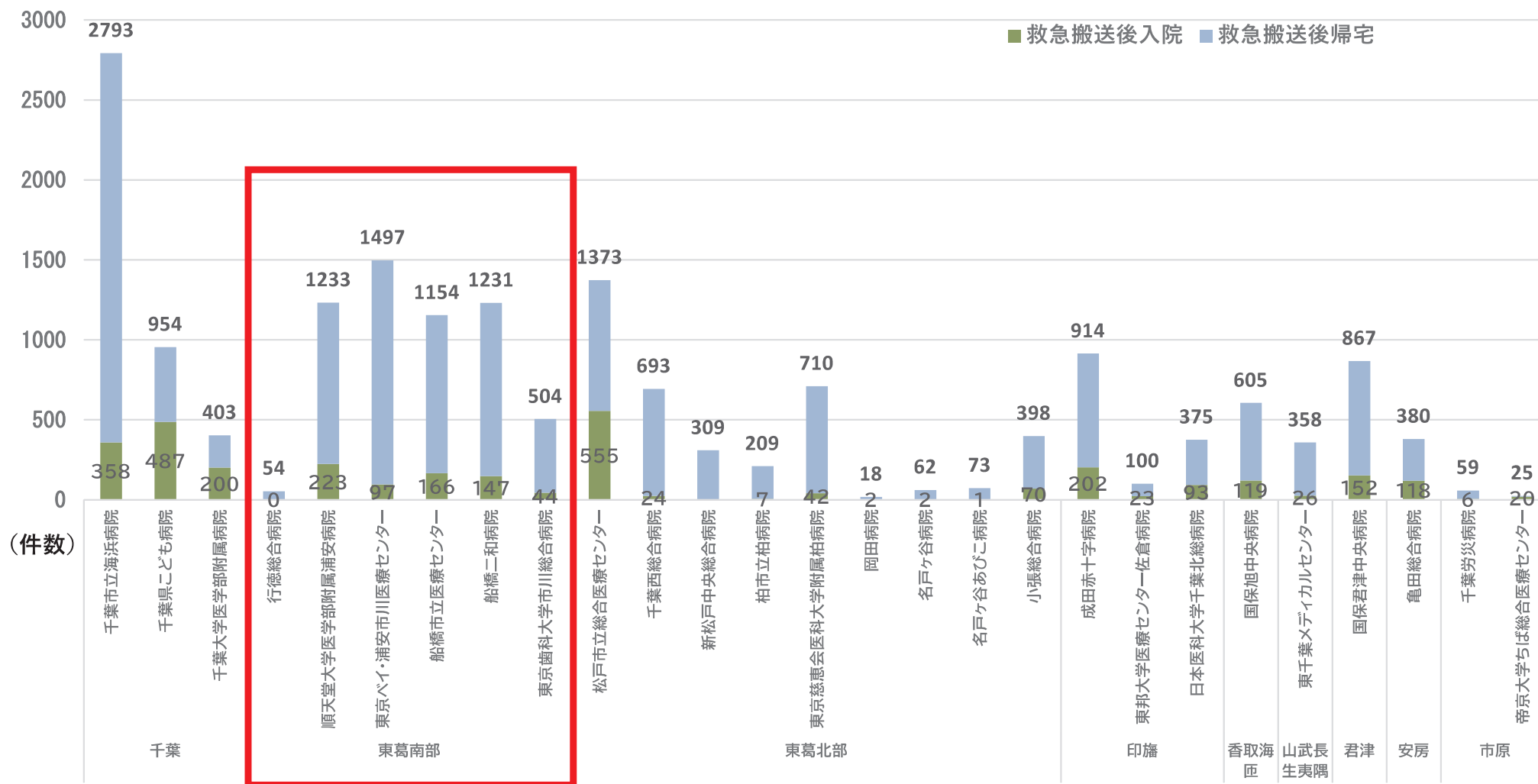
東葛南部医療圏 救急搬送件数(妊婦・産褥婦・新生児区分)



医療圏別 小児救急搬送後転帰の内訳

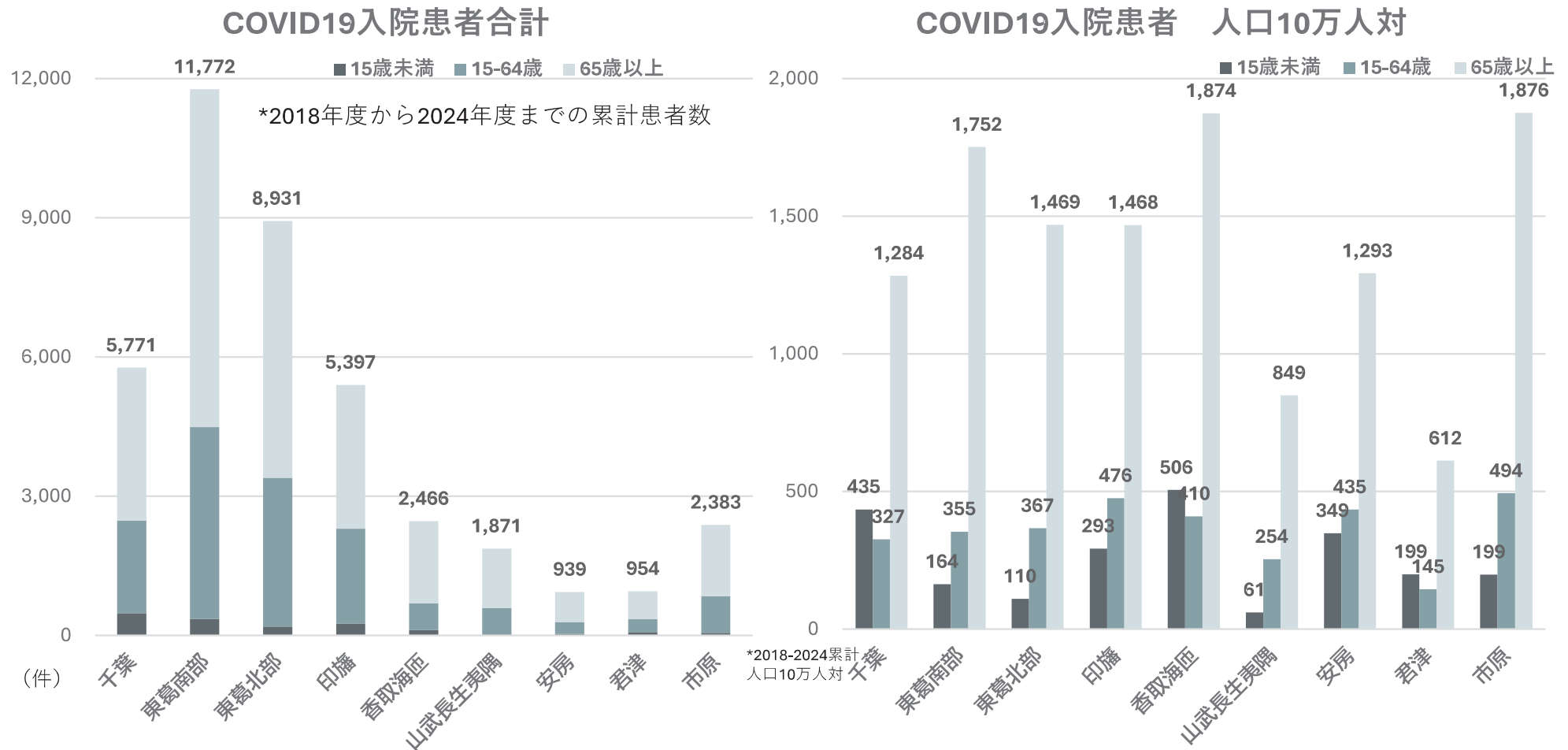
県内で小児救急搬送規模が最大となる

病院別 小児救急搬送後転帰の内訳



※出典：小児救急医療体制の現況調べ2023年 調査票B2小児（三次・二次）救急医療提供体制調べ 調査期間：2022.4～2023.3

入院患者数累計は東葛南部・北部が多い。
人口10万人対でみると香取海匠・市原の比率が高い。



船橋市立医療センターが最も多く、船橋二和・行徳総合等1,000名前後受け入れている病院が複数存在している。

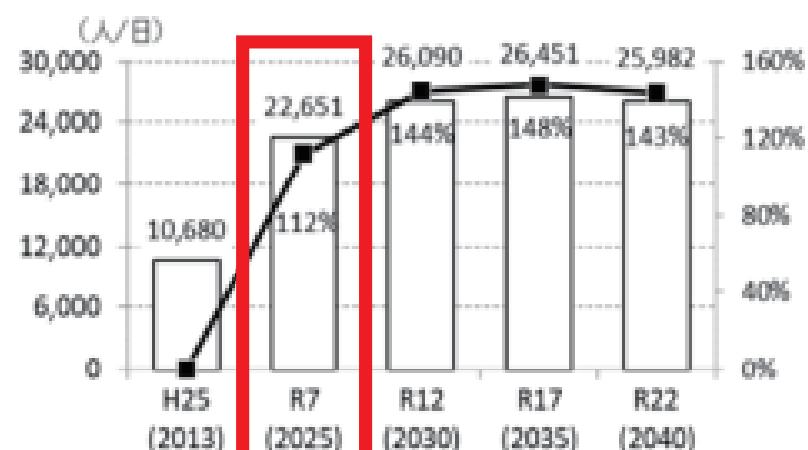
上映のみで提示

在宅医療等需要推移と変化率

東葛南部

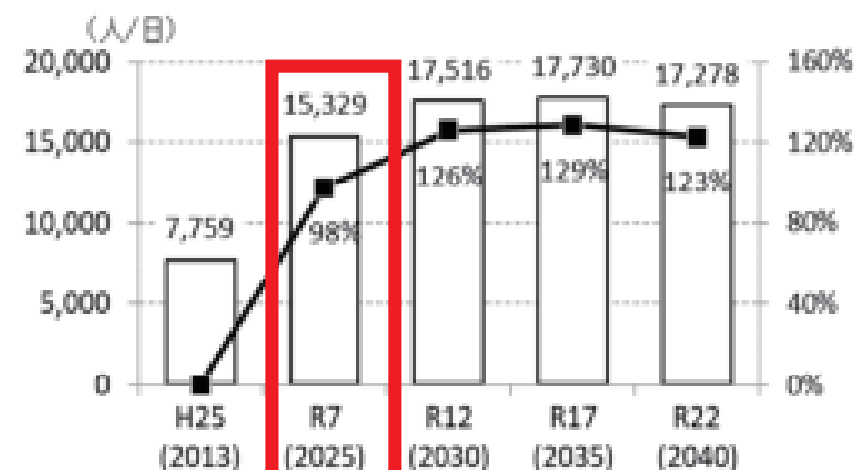
参考:千葉医療圏

図表 2-2-1-3 在宅医療等需要推移と変化率（東葛南部）



「地域医療構想策定支援ツール」(厚生労働省)により推計。

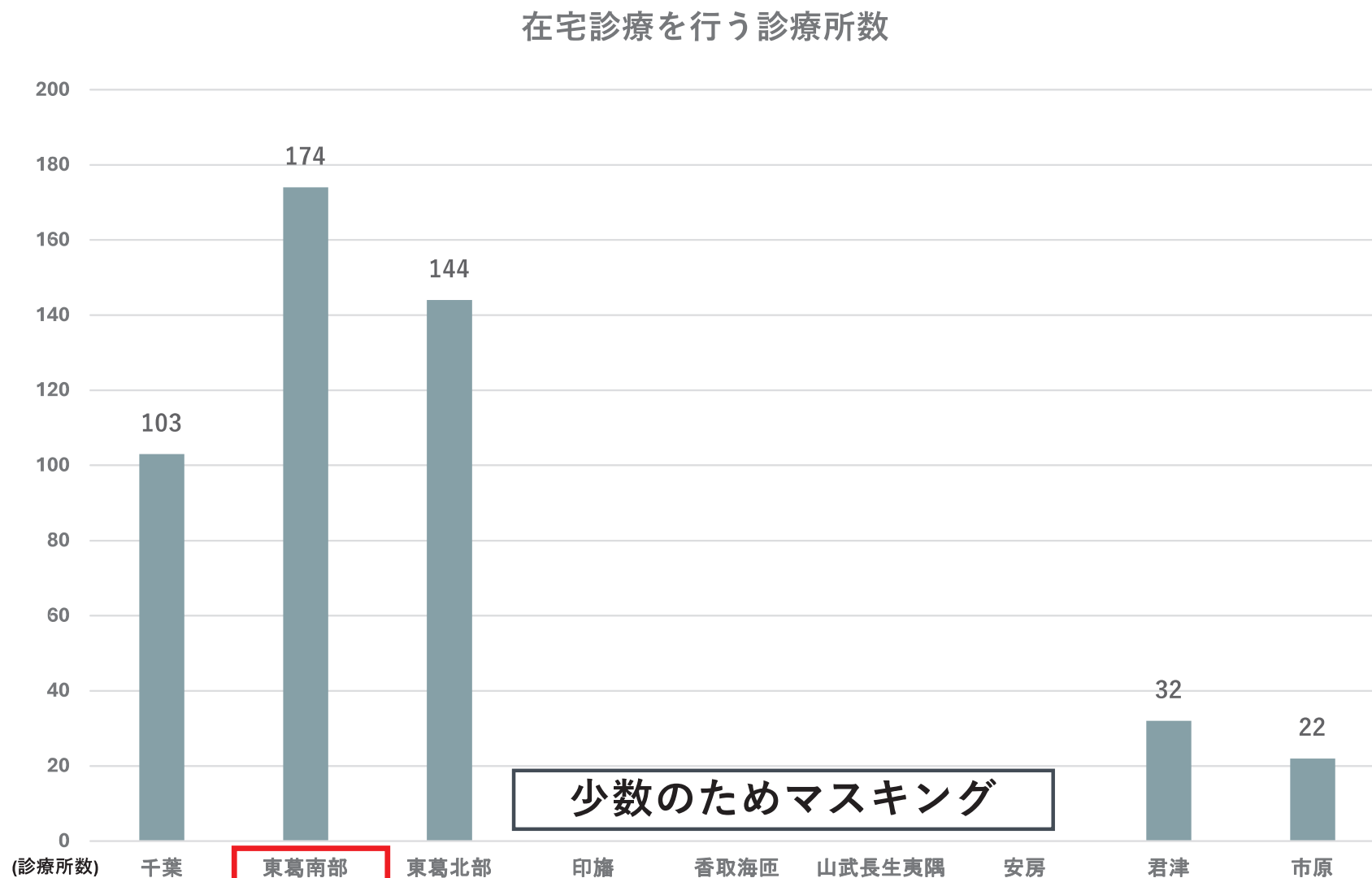
図表 1-2-1-3 在宅医療等需要推移と変化率（千葉）



「地域医療構想策定支援ツール」(厚生労働省)により推計。

東葛南部医療圏:在宅医療の需要はさらに増加➡横ばい・減少

在宅診療を行う診療所数は県内最大である。

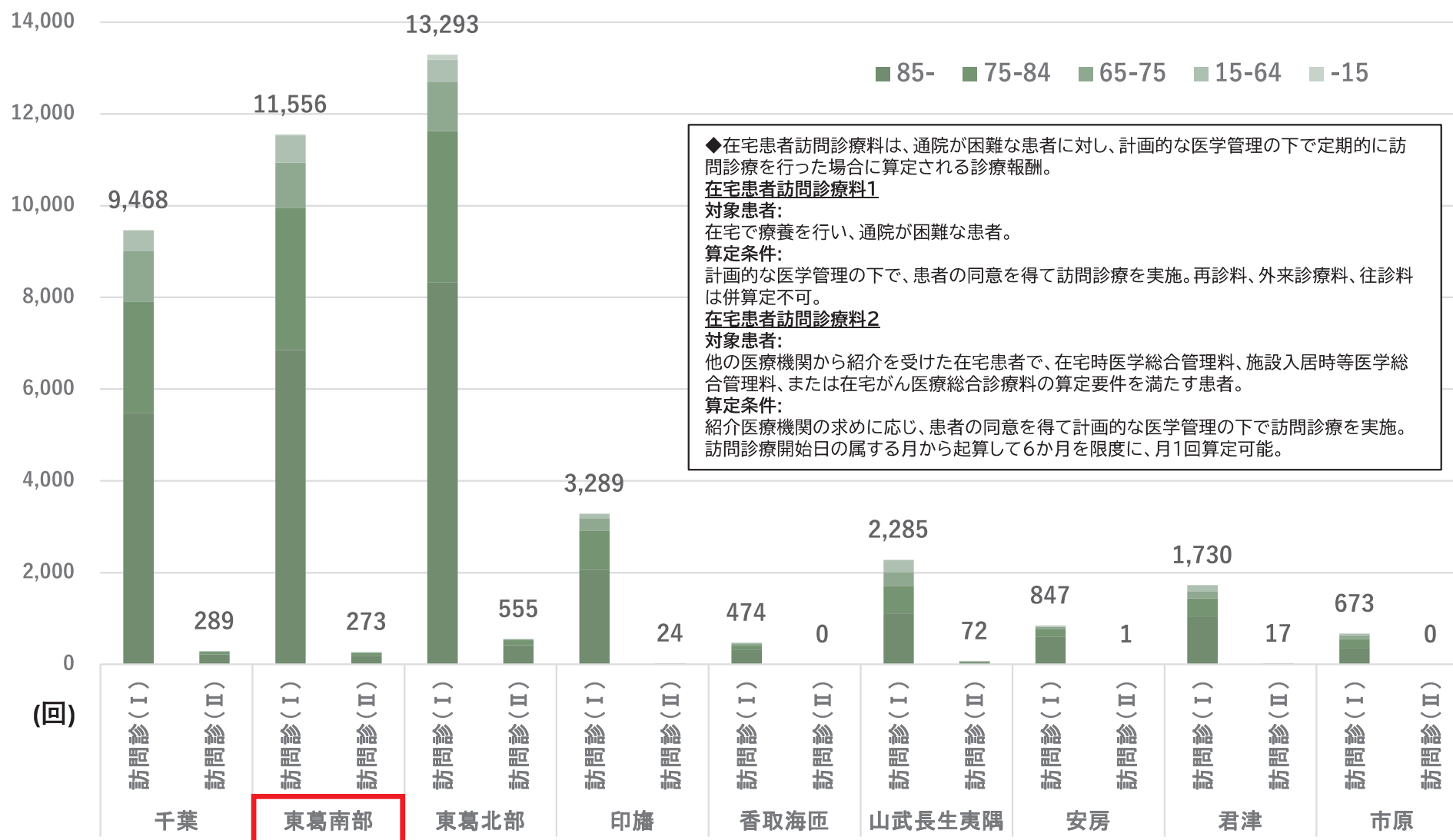


医療圏別 在宅患者訪問診療料(Ⅰ)(Ⅱ)算定回数

在宅医療

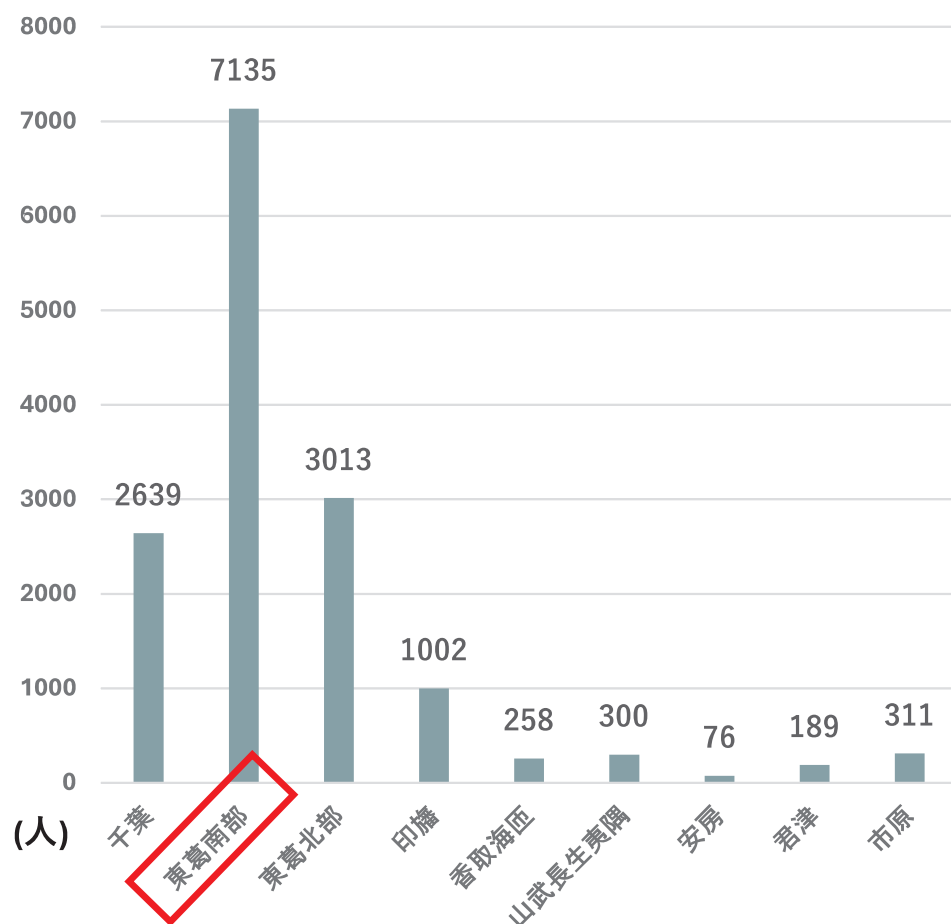
県内で2番手の算定回数であり、内訳として75歳以上の需要が高い。

在宅患者訪問診療料(Ⅰ・Ⅱ)



全数・人口10万人対規模の両者で県内最大の利用者数となる

小児の訪問看護利用者数



小児の訪問看護利用者数
小児人口10万対



※出典：①医療計画作成支援データブック2023年度内

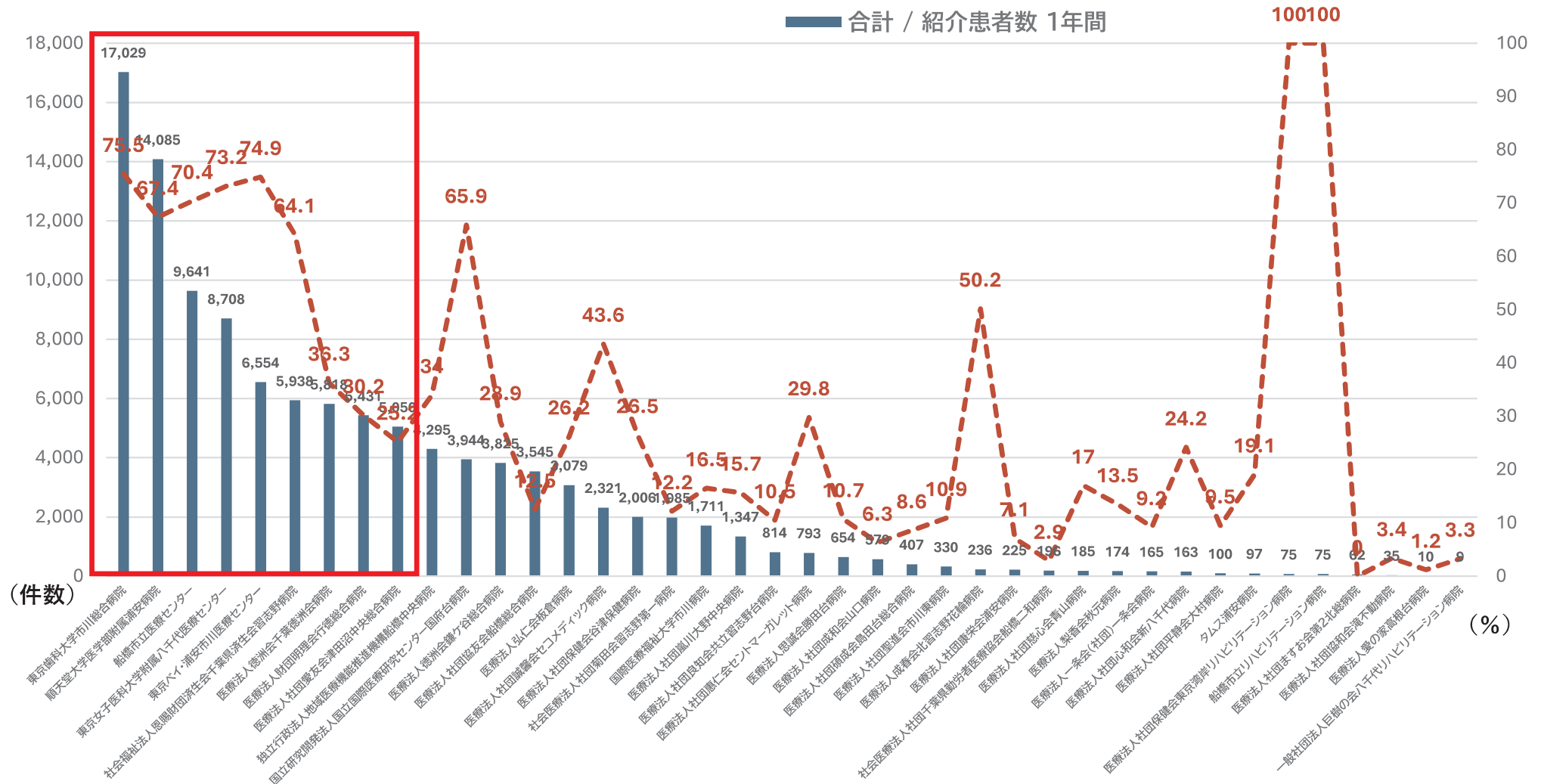
審査支払機関（国保中央会・支払基金）提供訪問看護レセプトデータ2022年

②人口は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（令和5（2023）年推計）2022年度値を使用

年間5,000件以上：9医療機関

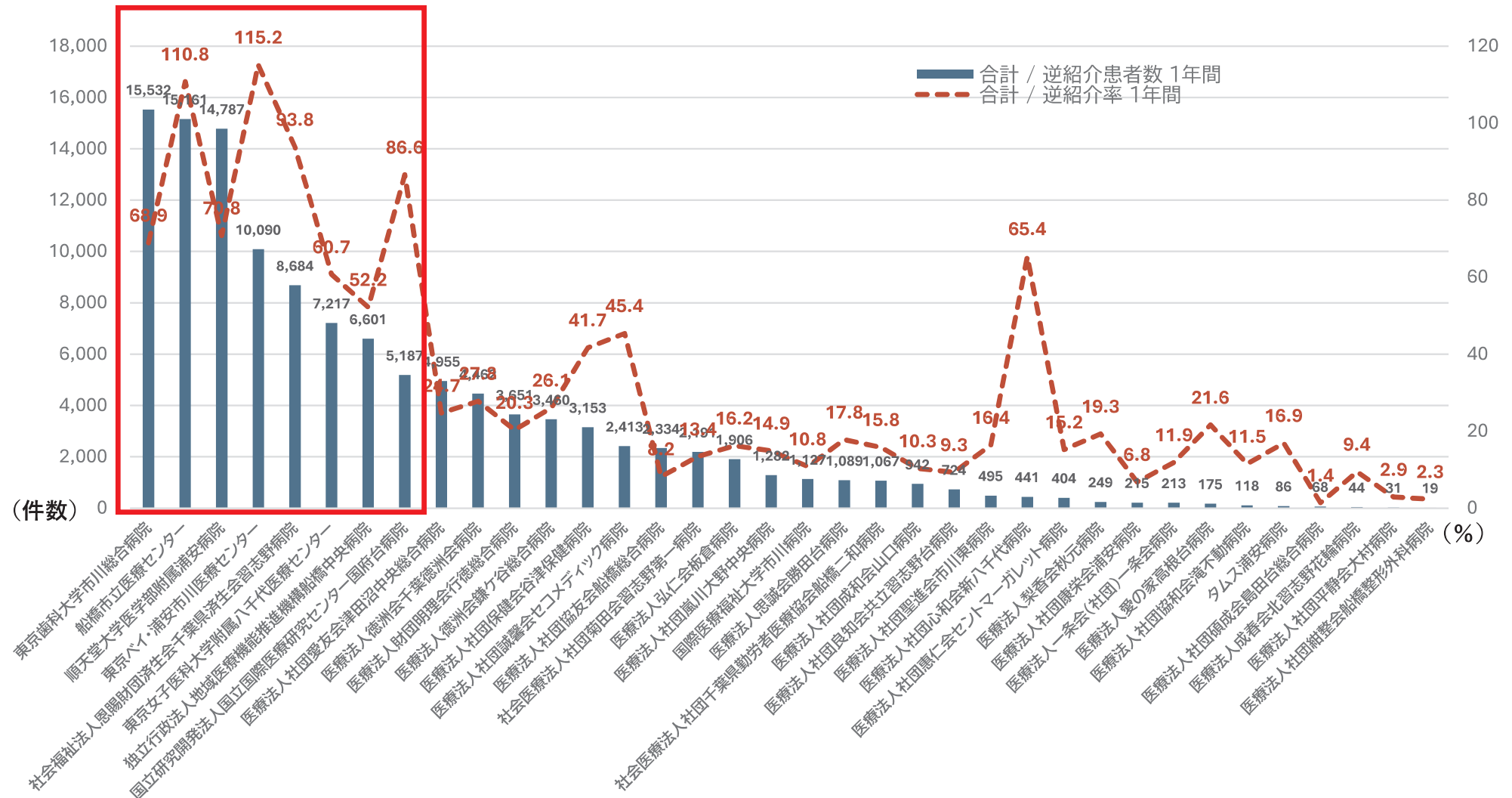
東葛南部医療圏 紹介患者件数

■ 合計 / 紹介患者数 1年間



年間5,000件以上：8医療機関

東葛南部医療圏 患者逆紹介件数



出典：外来機能報告2023(R5)年度

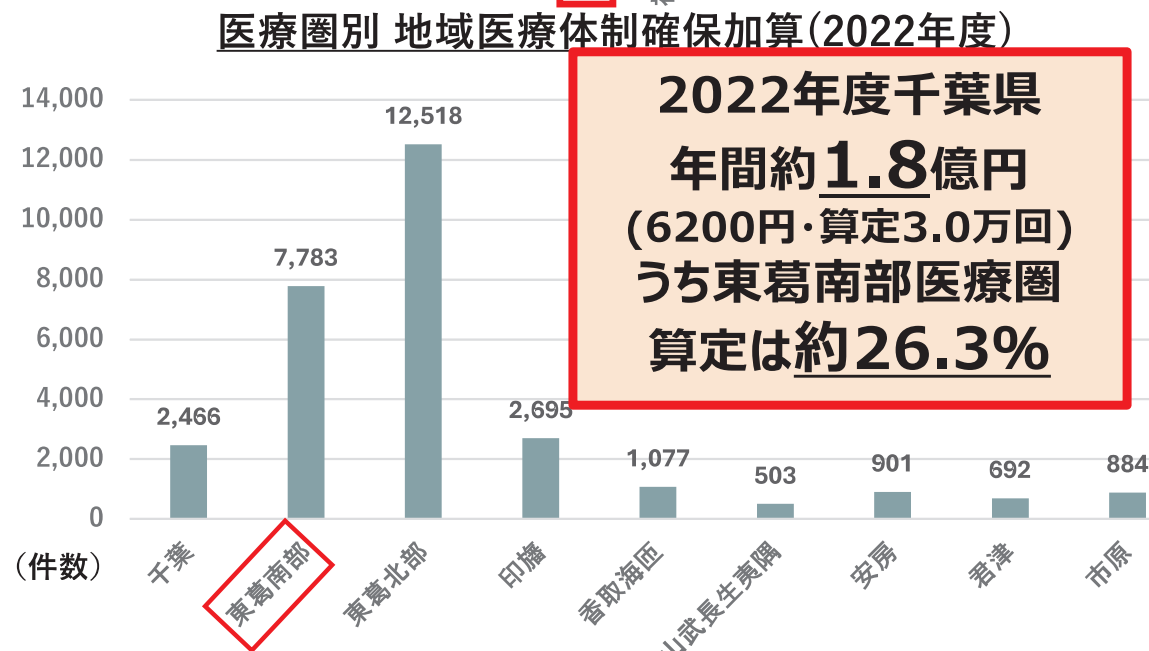
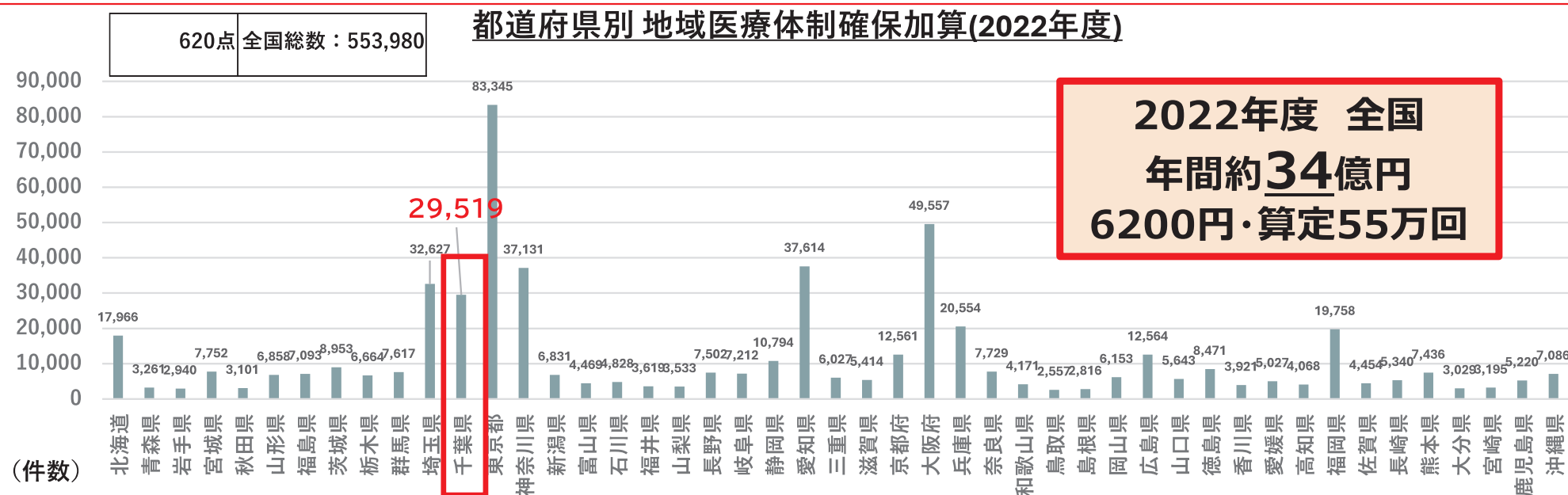
※病院による報告データのため一部データが不足している可能性がある

千葉県B・C水準医療機関 28医療機関

働き方改革

	2次医療圏	病院名称	B・C水準 (特定労務管理対象機関)
1	千葉医療圏	千葉市立海浜病院	B
2		千葉県こども病院	B
3		千葉県総合救急災害医療センター	B
4		千葉大学医学部附属病院	B/連携B
5		社会医療法人社団健脳会 千葉脳神経外科病院	B
6		医療法人社団創進会 みつわ台総合病院	B/C
7		千葉市立青葉病院	B
8	東葛南部	東京女子医科大学附属八千代医療センター	B/連携B
9		学校法人順天堂 順天堂大学医学部附属 浦安病院	B/C
10		公益社団法人地域医療振興協会東京ベイ・浦安市川医療センター	B/C
11		東京歯科大学市川総合病院	B/C
12		船橋市立医療センター	B
13		社会医療法人社団菊田会 習志野第一病院	C
14		医療法人社団誠馨会 セコメディック病院	B/C
15		医療法人徳洲会 千葉徳洲会病院	B/C
16	東葛北部	東京慈恵会医科大学附属柏病院	連携B/C
17		松戸市立総合医療センター	B
18		医療法人徳洲会 千葉西総合病院	B/C
19		医療法人社団誠馨会 新東京病院	B/C
20	印旛	日本医科大学千葉北総病院	B/連携B/C
21		東邦大学医療センター佐倉病院	B
22		日本赤十字社 成田赤十字病院	B/C
23		医療法人徳洲会 成田富里徳洲会病院	B/C
24	香取海匝	総合病院国保旭中央病院	B/C
25	山武長生夷隅	東千葉メディカルセンター	B
26	君津	国保直営総合病院君津中央病院	B
27	市原	千葉県循環器病センター	B 46
28		帝京大学ちば総合医療センター	連携B

働き方改革推進のため、救急等で一定以上の役割を担う医療機関に対して、入院初日に加算されているが、今年度から時間外労働時間の段階的な短縮が要件化された。



【「1-4 地域医療の確保及び機能分化を図る観点から、労働時間短縮の実効性確保に向けた見直し」を踏まえ、必要な救急医療体制等の確保（①）】

① 地域医療体制確保加算の見直し

第1 基本的な考え方

より実効性を持った医師の働き方改革を推進する観点から、地域医療体制確保加算の要件を見直し。

第2 具体的な内容

地域医療体制確保加算の施設基準に、医師の時間外・休日労働時間に係る基準を追加する。

現実には1860時間ではない・・・

2024年度：1785時間以下（月149時間）96%

2025年度：1710時間以下（月143時間）91%

来年度以降、本事業で検討すべき事柄

1) B・C水準の指定を受ける8医療機関の診療内容・回数のモニタリング

➡ 段階的な労働時間短縮により診療機能の低下が懸念される

➡ 救急医療：

(参照: 救急医療管理加算p32、夜間救急搬送収容 重症度別p33)

周産期医療：

(参照: 分娩時体重別件数p35、救急搬送件数妊婦・新生児p36)

小児医療：

(参照: 小児救急搬送転帰 p37)

全身麻酔：

(参照: 全身麻酔手術件数 P24、高難易度手術件数件数p25－26)

2) 千葉大の医師派遣機能に対する影響のモニタリング

➡ 派遣医師数と派遣先の調査を検討

➡ 派遣医師数の変化により全県で「2次救急機能」に影響がみられないか

3) 継続的なモニタリングの実施を検討

➡ 該当する指標案の調査・推移の見える化検討を行う

本事業の中で2024年4月以降のデータをモニタリングする

東葛南部医療圏 医療提供の状況について：現状と課題

【現状】

- 1)人口が維持ないし微減で推移する
- 2)在宅医療の需要増加がみられる
- 3)救急搬送の地域内完結率は県内で最も高い
- 4)働き方改革により時間外労働時間の段階的な短縮が求められている
- 5)新生児医療は女子医八千代、順天浦安、船橋中央によって支えられている



【課題】

- 1) 働き方改革の中、8病院（B1/C水準）の救急医療・新生児医療の機能が維持できるかモニタリングが必要
- 2) 大学からの医師派遣数などが変化する中、2次救急の機能が現在どの程度維持されており、今後どうなるかモニタリングが必要
- 3) 増加する在宅医療の需要に対し、担い手・体制が十分確保できるか